

伊藤健太郎や女子サッカー選手も 交通事故多発・なぜ「ひき逃げ」するのか

「事故では停止」と知っていてもパニックになって逃げると人生を棒に振るぞ

伊藤の損害賠償は5億円以上

俳優の伊藤健太郎容疑者(23歳)がひき逃げの疑いで10月29日に逮捕された。映画・ドラマ・CMに引つ張りだこの若手人気俳優だっただけに、その影響は計り知れない。

「彼は今が旬。雑誌『日経トレンディ』が選ぶ『今年の顔』に女性は田中みな実が、男性は伊藤が選出され、11月3日の発表会に2人揃って出席する予定だったが当然、欠席した。そして、伊藤が出演している映画『とんかつDJアゲ太郎』は散々だ。映画の公開は逮捕翌日だったが出演者の1人、伊勢谷友介(44歳)が9月に大塚取締法違反の容疑で逮捕され、10月中旬には同じく出演者のブラザー・トム(64歳)がモラハラ不倫を写真週刊誌で報じられた」(芸能ジ

ヤナリスト・佐々木博之氏)

NHKは、12月に放送予定だったドラマの出演を取りやめ、オンデマンドでの『スカールレット』『アシガール』の配信を停止した。さらにCM出演していた「マルハニチロ」は公式サイトから伊藤容疑者の動画を削除。『ジョンソン・エンド・ジョンソン』や「三井住友銀行」もCMを中止した。損害賠償は5億円以上とも報じられており、逮捕の代償はあまりにも大きい。

前出の佐々木氏が語る。

「昨年夏、伊藤の育ての親といわれる女性マネジャーが担当を外れてから、素行の悪さを耳にするようになった。現場に遅刻してきたり、二日酔いで酒臭いまま仕事場に現れたり、業界内で悪い評判が広まった。事務所のドル箱俳優になったので、周り

に注意する人もいなくなり、伊藤のわがままに拍車がかかった」

不祥事や醜聞が発覚すると、マイナスイメージが続出するという好例だ。芸能人のひき逃げでは、お笑いコンビのNON STYLEの井上裕介(40歳)が16年12月に乗用車でタクシーに衝突し、現場から逃げた事件がある。道路交通法違反(ひき逃げ)と自動車運転処罰法違反(過失傷害)の疑いで書類送検された。井上が接触事故を起こした相手に誠意を尽くしたことで不起訴処分となったが、記者会見で涙を流して謝罪した。今は復帰したが、逃げたことをよくおちよくられている。

被害者も救護義務を問われる

伊藤は都心の交差点でUターンする際に、対向車線を行きかかった2人



東京湾岸署から釈放され謝罪する伊藤健太郎

刑事処分は「道路交通法」によって、違反や交通事故の責任を問われるもの。死傷事故は「自動車運転処罰法」によって裁かれる。事故の経緯や運転者の過失の大きさ、被害者の負傷の程度によって、懲役刑、禁固刑、罰金刑が科せられる。

110番通報で駆けつけた警察官は現場の実況見分をする。軽度の人身事故は事故現場での確認で済むことも多いが、ひき逃げは、軽度の人身事故でも重い刑事罰が科せられる。また110番通報しないと、報告義務違反にも問われる。

救護義務は被害者も責任を問われることがある。赤信号で停止している車にバイクが衝突してバイクライダーが負傷した場合、衝突された車がその場を立ち去れば、車のドライバーはひき逃げとなる。救護活動は事故に関わりを持った運転者の義務で、被害者も救護義務を果たさなければ罪に問われる」

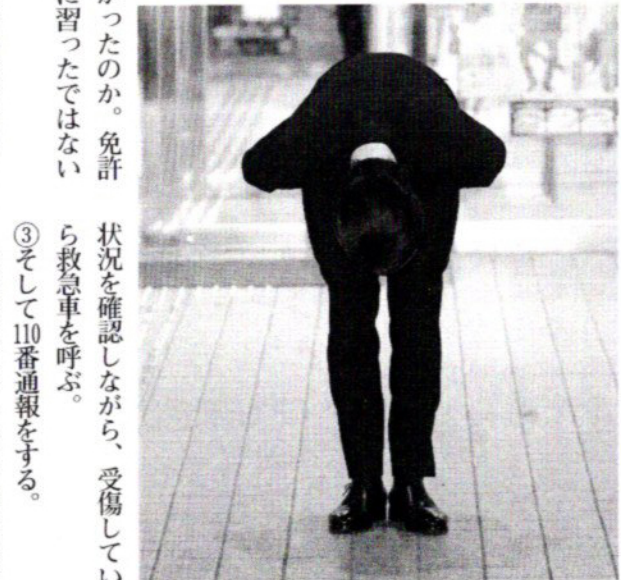
ひき逃げは意図的な大犯罪だ

大手タクシー会社のベテランドライバーはいう。

「いつ事故を起こすかもしれないと

交通事故多発・なぜ「ひき逃げ」するのか

る途中で事故を起こし、チームメイトに「戻った方がいい」と説得されて現場に戻った。調べに対し青木は「ぶつかったのは間違いないが、人だとは思わなかった」と供述した。



東京湾岸署から釈放され謝罪する伊藤健太郎

両事件を知った世間は、どうして被害者を救護しなかったのか。免許証を取得したときに習ったではないかと批判が沸いた。

確かに免許証取得時の講習で習う道路交通法第72条に規定されている。「交通事故があったときは、当該交通事故に係る車両等の運転者その他の乗務員は、直ちに車両等の運転を停止して、負傷者を救護し、道路における危険を防止する等必要な措置を講じなければならない」

①まず車を止める。
②次に被害者の救護。「大丈夫ですか、けがはございませんか」と被害者の

状況を確認しながら、受傷していたら救急車を呼ぶ。

③そして110番通報をする。交通事故に詳しい高山俊吉弁護士が指摘する。

「人身事故を起こした加害者は、民事責任の他に行政処分と刑事処分の2つの処分が科せられる。

行政処分には、交通違反や傷害の程度に応じて「点数制度」に基づく免許の停止、取消処分がある。ひき逃げをすると35点が加算され、前歴の有無にかかわらず、これだけで免許取り消しとなる。現場から逃げずに、110番通報して被害者の救護活動をするれば35点は加算されずに済む。

乗りのバイクに衝突し、そのまま現場から走り去った。バイクを運転していた男性(26歳)は左腕を打撲、同乗していた女性(27歳)は左足を骨折して重傷を負った。

事故に気付いた後続の70代男性が運転する車が追いかけて、赤信号で停止した伊藤を説得したため現場に戻った。しかし被害者に詫言するでもなくスマホをいじっていたという。もし逃げ切っていたら拘留も長引き、非難は殺到していただろう。

取り調べに対し伊藤は、事故を起こし逃げたことを認めた上で「とにかく気持ちが悪く動転し、パニック状態になってしまった」と供述した。

11月には栃木県宇都宮市で女子サッカー選手青木春菜(25歳)が女性青木はサッカー練習場から自宅に帰

常に細心の注意で運転すべきだ。しかし、注意はしていても事故は起きる。事故は向こうからやってくることも多い。高齢者は接触しなくても横を通過する車に驚いて転倒することもある。歩道から自転車や人も飛び出してくる。ハンドルを握る以上、事故は避けられない」

前出の高山弁護士はとにかく、逃げないことを力説する。

「交通事故は自分とは無縁と考えるドライバーが多いが、日常的に発生している。事故を起こしたら逃げる人は多い。パニックになる人も多い。事故後の行動は尋常な心理的な状態ではない。大変なことをやらかしたと思うから逃げるのだ。とにかく事故を起こしたら、まず車を止める。事故に限らず、何か衝突したなと思ったら車を止める。車から降りて周りを確認するのがまず」

事故に遭うと弱い心に悪魔が囁く。逃げるが勝ち」と。しかし、逃げたらその報いは10倍返し。負傷した人を見捨てて逃げることは、意図的な大犯罪行為だ。伊藤容疑者も青木容疑者も社会の指弾を浴びて、今後の人生を歩まなくてはならない。